

## 1. 評価結果概要表

作成日 2009年3月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0874300841		
法人名	アサヒケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームみやびの里		
所在地	茨城県古河市駒羽根1420-1 (電話) 0280-91-1581		

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市元石川町2523-3		
訪問調査日	平成21年3月15日	評価確定日	平成21年6月10日

## 【情報提供票より】(平成21年 2月20日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算	13人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1階～	2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	有( 140000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 360000円)	有りの場合 償却の有無	有(3年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1600円	

## (4) 利用者の概要( 2月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	名	女性	名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	61 歳	最高	92 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	総和中央病院・山中医院・女沼クリニック
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の中に立地し、周辺には工業団地がある。当ホームは広大な敷地に2階建ての建物で中庭には利用者が作る畑や庵形式の建物があり、野外でのんびり過ごせ、地域の方との交流の場となるような工夫がされている。利用者の居室からは中庭が見渡せ、1階部分は部屋から出入りできる構造になっている。植栽されている樹木などから四季折々の景観が楽しめる工夫がうかがえる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスの特徴の一つである地域との支えあいの取り組みに改善が必要である。地域に溶け込み、地元活動への参加や地域の資源活用について事業者・施設長・職員が一体となって取り組んでいくことを期待する。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全体で取り組み、改善点についての内容を共有することは出来ているが、進捗状況を全員で共有できる体制が必要と考えられる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議参加者は、施設内のメンバーにとどまり、事業所活動状況や利用者の状況、外部評価結果と改善の取り組み等の報告、助言、地域との交流促進の話し合いの場となっていない。外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会とすることを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族へは年4回のホーム便りや、訪問時に生活面や身体面の報告を行っている。家族会の開催も今春に予定され、家族の方たちが気軽に話し合える工夫がある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設長が自治会、老人会に加入し、近隣のコミュニティセンターで行われるイベントなどに利用者が招待されている。施設のイベントにも地域の方が集まり交流が図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と共に作りあげられた理念がホールに掲示され、共有されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践の具体的な取り組みとして、利用者と共に毎日唱和したり、外部イベントへの参加をしている。利用者の唱和は嚆下訓練を兼ねている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長が自治会、老人会に加入し、近隣のコミュニティセンターで行われるイベントなどに利用者が招待されている。施設のイベントにも地域の方が集まり交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は職員会議等で開示されている。自己評価は全員で話し合いを持ち、管理者がまとめている。		利用者や家族、運営推進会議参加者が閲覧できる工夫を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での開催に止まっている。	○	事業所活動状況や利用者の状況、外部評価結果と改善の取り組み等の報告、助言、地域との交流促進の話し合いの場となっていない。外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会とすることを期待したい。

茨城県 グループホームみやびの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業主・施設長が取り組んでいるが、詳細については管理者は把握していない。生活保護担当の市職員の訪問は月に1～2回あり、状況などは報告している。		運営推進会議を通じて、市の担当職員と管理者・職員の交流を図ることで協働関係を築けることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは年4回のホーム便りや、訪問時に生活面や身体面の報告を行っている。家族会の開催も今春に予定され、家族の方たちが気軽に話し合える工夫がある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などで何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意し、出された意見・要望等を職員会議で話し合い、反映させていくようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動に関しては施設長、管理者が相談しながら慎重に行っている。毎月、ヘルパー実習や傾聴ボランティアの外部参加があり、利用者の混乱は見受けられない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会に自主的に参加したり、職員の能力に応じ管理者が研修を薦めたりしている。研修報告や伝達講習も行われている。		早期離職者が多い対策として、新人職員育成プログラムを作成し、グループホームで働くやりがいの工夫を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業主が他ホームと交流があるが施設としての交流は行われていない。今後、イベントなどの交流を計画している。		同業者との交流を行うことは、職場内での行き詰まりの解消やサービス水準の向上につながることを理解し、取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前調査などで自宅に訪問し顔なじみの関係を築いたり、使い慣れたものを持ってきてもらうなどの工夫がある。また、利用者同士が気軽に会話を楽しめる環境づくりに努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で利用者に教えてもらう場面を多くもてるようにセッティングや声かけに配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日のうち床上で過ごしている時間が多い方には頻繁に訪室し、声かけを行っている。また、会話の中から過去の生活を知る努力をし、出来る限り利用者が望む暮らしが出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前情報の他に、入所1ヶ月間の気付きを集約し、計画を立案している。老健から入所した褥瘡のある方が食事の工夫やケアで褥瘡が完治した事例もある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の要望や状態の変化を業務日誌や経過記録に記載し、計画の見直しに反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの書道教室の参加など顔なじみの関係を築いたり、かかりつけ医への通院に家族の付き添いが困難などときにはヘルパーステーションの送迎サービスを利用している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診、1週間に1度の訪問看護を利用している。かかりつけ医の受診は基本的に家族に対応してもらおうが、困難などときには併設されたヘルパーステーションの送迎サービスを利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時の対応についてはマニュアル化し、対応している。		状態の変化に応じた終末期のあり方についての家族との面談記録を残していただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーを損ねる言動を全職員がしないことを徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の残存機能、体調に応じて本人の日課を把握し支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好について把握し献立に取り入れたり、個々の能力にあわせ、形態の工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の思いを大切にし、体動困難な方でも出来るだけ浴槽に入れるように援助している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一日のうち床上で過ごしている時間が多い方も食事は車椅子に乗車し、皆と一緒に摂られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中庭での日光浴や近隣の公園などに散歩に出かけている。1階利用者は安全面を考慮したうえで自由に居室から中庭に出来るようになっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない工夫に関して日頃から話し合いを持ち、メリット・デメリットを含め現在検討中である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年消防署と連携し避難訓練を行っている。今年についても地域の方に参加していただき、夜間想定 of 訓練を行う予定で準備がすすめられている。		

茨城県 グループホームみやびの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設のデイサービスの栄養士がカロリー計算された献立を作成。摂取量も記録され支援に活かされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員・利用者・家族と話し合いを持ち、居場所が心地よく、活動しやすい工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや馴染みの物が用意されるなどの配慮がある。		